

# 生徒（生活）指導（教育相談）研究部会

## I 研究テーマ

生徒指導部会 統一テーマ「望ましい生徒指導のあり方」

教育相談部会 小テーマ 「生徒指導の今日的課題の解明に向けて」

## II 研究テーマ設定の理由

昨年度（2012年度）の小学校、中学校及び中等教育学校（前期課程）の不登校児童生徒は、全国では11万2689人と、前年度に比べ4769人減少した。山梨県をしてみると中学不登校生徒数は、693人であり、2007年度の不登校率全国ワーストワンから、全県を上げた取り組みが功を奏し、おおむね減少を続けている。とはいっても中学生100人あたりの出現率は、全国平均2.57人に対し、山梨県は2.72人（14位）という数字であり、比率的にはまだまだ多い。

山梨県内では、不登校の長期化や引きこもり、虐待など、深刻なケースが見られているが、全国でも、児童虐待の件数が2012年まで22年連続で更新するなど、同様な問題が見られる。また、不登校生徒が卒業後にニートと呼ばれる引きこもりになることもあり、これもまた大きな社会問題となっているように思う。不登校生徒が学校に在籍している間に、いかに社会とのつながるきっかけを数多く作っておくかが、喫緊の課題として学校現場に突きつけられていると考えている。

また、教室への登校ができず、保健室などへ登校している児童生徒の問題や軽度発達障害児やその子を取り巻く環境へ対応の問題、被虐待児童生徒がおこす問題行動など、子どもたちの「心」をめぐる問題は山積しており、学校現場の多忙さも併せて指導は困難を増す一方である。

本部会ではこのような現状を踏まえ、特に不登校や発達障害など特に支援が必要な児童生徒の事例研究を通して、学校はどのような対応をすべきかをお互いに学び合うとともに、今年度は、支援学校のセンター機能を利用した不登校に関わる講義や部会の中の教職経験が長い先生を講師とした学習会を設定することにより、日々の教育活動に生かしていこうと考えた。

## III 研究の経過と内容

4月 9日：第1回部会総会・研究会

- ・部会員の確認，組織の決定，研究の方向性についての話し合い

5月14日：春季全体集会・第2回部会研究会

- ・今年度の部会研究テーマ，活動方針，活動計画等の決定
- ・「事例研究」「学習会」について
- ・春季教研還流報告

6月18日：第3回部会研究会

- ・事例研究会①（実践事例1人1提案）

東中（1レポート）

南中（2レポート）

城南中（1レポート）

上条中（1レポート）

笛南中（1レポート）

貢川小（1レポート）

夏休みの研修会について

7月31日：第4回部会研究会・夏季全体集会

- ・かえで支援学校 特別支援コーディネーターによる講義
- ・かえで支援学校の見学
- ・県教研レポート提出者の決定

8月16日：第5回部会研究会（レポート発表と協議）

- ・事例研究会②

甲府東中（1レポート）

甲府南中（1レポート）

9月 3日：第6回部会研究会

- ・学習会①

講師 上条中教諭

学習内容：「自閉症児の指導」

10月1日：第7回部会研究会

- ・学習会②

講師 北中教諭

学習内容：「応答訓練」

県教研のレポーター及び正会員の決定

11月5日：第8回部会研究会

- ・県教研参加者還流報告

レポート提出・発表 東中

教研推進委員 上条中

正会員 南中 貢川小

1月21日：第9回部会研究会

- ・今年度のまとめと来年度の方向性の討議
- ・会計報告
- ・来年度の世話人について

## IV 研究の反省と課題

### 1 今年度の部会を振り返って

#### ①成果

今年度は事例研究だけでなく、学習会も行ったので、幅広い内容を学ぶことができた。事例研究では、部会員の過去の経験や研修をもとに具体例を出し、いろいろな切り口から事例を検討することができた。また、その対応方法等が話し合えたので日々の実践の参考になったという意見も多く、不登校だけでなく、インクルーシブ教育に関わっても学ぶことができた。

また、夏期研修会では、支援学校のコーディネーターの先生から、発達障害が原因で起こる不登校について、事例を中心とした講義を聞き、特別な支援を必要とする生徒への関わりについて多く学ぶことができた。また、施設見学をあわせてさせていただき、支援学校の様子を垣間見ることができ、参考になった。今後は、ますます支援学校のセンター機能を利用する機会も増えてくると思われるが、センター機能の利用方法や支援学校の指導方法を学べたことは、大変有意義であった。

後半の学習会では、教職経験が長い先生に日々に生きる教育技術を伝授してもらうことができた。多忙で、昔の学校のように先輩教師から教えてもらうことができる時間が減っている中で、大変貴重な時間を過ごすことができたと感じている。

#### ②課題

課題としては、部員が固定化していること、および高齢化により学級担任から外れる教師が増えていることにより、提供できる事例が過去のものになってきたり、直接発表者が関わらなかった事例発表が増えてきたりしていることがある。また、事例を文書提案しているが、個人情報に関係もあり、研究会終了後には、回収廃棄する方法をとっている。県教研では、研究のための資料であれば、個人情報には配慮するものの、厳格には捉えなくてもよいのではないかという助言もあった。今後は、研究で提案された事例を持ち帰れるようにすることにより、研究の成果を事例提出校のみならず、他校でも学年研究や校内研究などで積極的に還元できるようになっていけばと考えている。また、事例が少ないときには、無理をして何年も前の事例を出すのではなく、今の学校の組織的対応について発表してもらい、学びあうことも考えていきたい。

### 2 来年度に向けて

甲教協で教育相談の事例が検討できるのは本部会だけであるので、来年も基本的に今年度の研究を継続していきたいという意見が多数であった。4月の部会で、各校で知りたいことや困っていることを出し合い、それについて文献研究を行い、レポートを提出するなどの内容も加えていったらどうかという意見も出されたので検討していきたい。また、コスモス学級が場所によってカラーが違っても聞くので、どんな特徴を持った児童生徒が、どこのコスモス学級にあっていのかなどの研修を深めたり、予算の関係もあるので難しさもあるが、外部講師をさらに積極的に活用して、最新の教育相談法などを学んでいきたいと考えている。